

持続可能性を追求した「成長キャンパス」

武庫川女子大学中央キャンパスは、2019年に創立80周年を迎える歴史あるキャンパスです。創設者が思い描いた立学の精神を具現化するため、教学改革と施設整備を推進し「全国最大規模の女子総合学園」となりました。1995年の阪神大震災以降は、耐震改修に取り組み、全ての教室棟の改修が完了しました。また2008年には「武庫川女子大学環境宣言」を制定し、全学をあげて地球環境保全活動にも取り組んでいます。都市部という立地条件の中、限られた敷地の中で既存ストックを活用しながら、時代のニーズに合致した学習環境を整備していくことがキャンパス全体の課題となっています。

所在地：兵庫県西宮市池開町
主要用途：大学

①人にも環境にも優しい耐震補強（木質材料の利用によるCO₂排出量の削減）



温かみのある講義室



木材による耐震補強

改修工事の手法に関しても、環境に配慮した手法を採用しています。LVL木造耐震壁（カーボンニュートラル材）を利用した耐震補強により、CO₂排出量を従来の補強工事に比べて大幅に削減することができました。また、従来の講義室では感じることもできない、木の温もりを体感できる、学生にもやさしい耐震補強となっています。

※LVL（Laminated Veneer Lumber 単板積層材）

CO₂ 排出量 約 8.3t 削減

②地域連携の拠点を地域防災にも活用



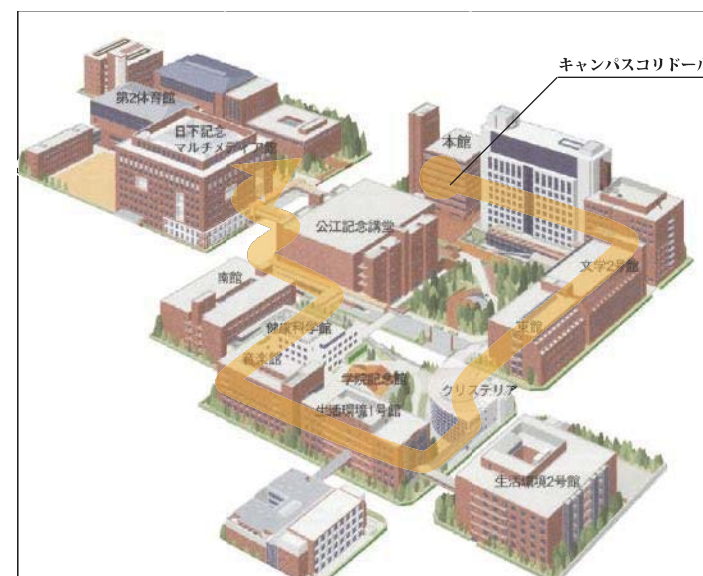
津波避難ビル



地域交流

全学的に安否確認システムを整備し、耐震改修済みの校舎を学生・教職員の指定避難建物としています。また、西宮市と連携し、地域の津波避難ビルとして一部施設の開放も計画され、周辺住民の避難受け入れに備えています。更に避難施設としてだけでなく高齢者の食事の支援等、日頃から地域交流の拠点としても機能させることで、有事の際も人々が集まりやすい関係性を積極的に築いています。

③持続可能なキャンパス計画を支える耐震、リニューアル、新築工事



Open the Learning Style “武庫女の見えるキャンパス”

武庫川女子大学中央キャンパスは、立学の精神に基づき、中長期的な視点からキャンパスマスタープランを策定し、周辺地域に配慮したキャンパス建設を行ってきました。既存ストックの有効利用がキャンパス計画における重要課題となるなかで、本学では中央キャンパスの特徴である「キャンパスコリドール」を中心とした回遊導線を活かし、コリドール沿いの拠点整備を行うことで、歴史あるキャンパス風景を継承しながら、最先端の学習環境と新しい学生の居場所を確保しています。「学内の見える化」と「学生の居場所の設置」に配慮したキャンパス整備を行うことで、学生同士が互いの存在と活動を意識し、キャンパス内に更なる活気を生み出すことに成功しています。



自然採光に満たされたキャンパスコリドールと見える化された講義室

標準レファレンスビルの照明エネルギーに対して **約 73% 削減**



気軽に立ち寄れるライブラリーカフェ

自然採光とLED化により改修前の照明エネルギーに対して **約 35% 削減**



豊かな緑に囲まれた学生達の憩いの場



インターンシップ時にも積極的に活用されるキャリアラウンジ

LED化により改修前の照明エネルギーに対して **約 22% 削減**